

れきしみち

2. 改元記念特集「安城と悠紀斎田 一技師山崎延吉の役割」
4. 連載「安城歴史散策 風を感じて歴史を歩く」
5. 新刊本紹介 西丸下歩兵隊 安城村山口柳助の記録
6. 博物館実習報告
7. 安祥文化のさとではたらく人たち、歴史博物館休館のご案内
8. 安祥文化のさとまつりのご案内

2019.10
No.114



西丸下歩兵隊 安城村山口柳助の記録



改元記念特集：安城と悠紀斎田 一技師山崎延吉の役割一

写真中央：大嘗祭悠紀斎田ノ豊穰



和泉の手延へ素麺づくり



第14回

安祥文化の

さとまつり

歴史、伝統文化、アートの祭典

令和元年

10月5日(土)

9:00~16:00

会場 安祥文化のさと

・安城市民ギャラリー・安城市埋蔵文化財センター
・安祥公民館・安祥城址公園

子ども武者行列

火縄銃演武

書の実演

式部流棒の手

同時開催

9月27日(金)~10月6日(日)

9:00~17:00(最終日は16:00まで)

・歴史のひろば展・歴史団体活動発表展・発掘のあゆみ展
・安城土器作りボランティア会作品展・市民ギャラリー講座受講者作品展
・市民ギャラリー企画展「花のいろどり 草木のみどり」

第28回

市民陶芸まつり

10月5日(土)、6日(日)

9:00~16:00(※6日は15:00終了)

【会場】安祥公民館

・作品展示
・チャリティーバザー
・1日陶芸教室

安城市民ギャラリーよりお知らせ

第76回 安美展



安美展は安城市唯一の公式の公募型美術作品展覧会で、市内にとどまらず、広く全国から募った美術作品を展示します。

【前期】日本画、書、工芸・彫塑 10/25(金)~11/4(月・祝)
【後期】洋画、写真 11/8(金)~11/17(日)
【時間】9:00~17:00
【休館日】10/28(月)、11/11(月)

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

【全館共通事項】

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)
URL / <https://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館

安城市歴史博物館 改修工事のため休館中
開館時間 / AM9:00~PM5:00
TEL: 0566-77-6655 FAX: 0566-77-6600

安城市民ギャラリー
開館時間 / AM9:00~PM5:00
TEL: 0566-77-6853 FAX: 0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター
開館時間 / AM9:00~PM5:00
TEL: 0566-77-4477 FAX: 0566-77-6600

安祥公民館
開館時間 / AM9:00~PM9:00
TEL: 0566-77-5070 FAX: 0566-77-6062



悠紀齋田と主基齋田

今年新しい天皇が即位され、年号も平成から令和へと改元しました。十月には即位式、十一月に大嘗祭が行われます。

天皇がその年の新米を神々に奉げ、自らも食すという新嘗祭が毎年秋に行われます。天皇が即位した年に行われる新嘗祭を大嘗祭といえます。大嘗祭で奉納される新米は点定（古い）で決められた悠紀・主基の国で収穫された米と決められています。悠紀は京都より東の国、主基は京都より西の国が選ばれました。

今から一〇〇年前の大正天皇の大嘗祭では、悠紀齋田に愛知県碧海郡六ツ美村中島（現在の岡崎市）が、主基齋田に香川県綾歌郡山田村（現在の綾川町）が選ばれました。岡崎市中島町の悠紀の里では今も「御田植えまつり」が行われ、市の無形民俗文化財に指定されています。

碧海郡六ツ美村の選定

大正三年（一九一四）二月、悠紀齋田が愛知県に決まると、県知事松井茂は、農商務省及び宮内省と協議するため、県立農事試験場長で県立農林学校校長（現在の安城農林高等学校）の山崎延吉と上京しました。愛



大嘗祭悠紀齋田ノ豊穰（「大嘗祭悠紀齋田絵はがき」より、本館蔵）

改元記念特集

安城と悠紀齋田

技師山崎延吉の役割

文責 水谷令子
に誘蛾灯を置きました。

主基齋田の香川県では大事を取って正式の齋田の他に控田を設けました。しかし山崎延吉は、技術に疑いを持つのは聖代の恥辱であるとして控田を設けず、器具、機械にしても技術者が最良のものを選定すると知事に厳しく掛け合い、その通り実行しました。延吉は事務官などが技術者を軽んじることや技術を尊重すべきという意識をもっていました。こうして齋田の稲は無事に収穫を迎えることができました。

齋田における儀式

齋田では大正四年春から祓式や播種式、御田植祭などいくつもの行事が行われました。中でも六月五日の御田植祭は農商務省関係者や主基齋田関係者、県内や郡内の各長が招待され、盛大に行われました。新渡戸稲造や英国農政学者ロバートソン・スコット、天竜川の治水事業等に貢献した金原明善も参列しました。

九月二十日の抜穂式には天皇の勅使がみえ、御田植祭同様盛大に行われました。抜穂式の前々日に東京から来た勅使は安城駅で降り、知事や山崎延吉らの迎えを受け、安城町役場に新築した齋館（貴賓室）に宿泊しました。翌日には馬車で六ツ美村の齋館へ向か

知県に戻るとすぐに齋田場所の選定にかかりました。

県内から候補をあげ、何度か協議した結果、碧海郡六ツ美村中島に住む早川定之助が所有する田と決まりました。愛知県では齋田奉仕者を指導監督するため内部部長をトップに、齋田に関する委員の一人として山崎延吉を任命しました。延吉は齋田が六ツ美村に決定した日の日記に「快感二不堪」と喜びを記しています。

六ツ美村では早速六ツ美村悠紀齋田委員会が設立され、齋田の整備が始まります。しかしこの年四月に明治天皇の皇后が崩御したことにより、大嘗祭は翌年に延期となりました。

齋田の運営

大正四年三月には六ツ美村有志により悠紀齋田奉賛会が設立されました。総裁は県知事松井茂、会長は碧海郡長井深基、顧問及び庶務部長は衆議院議員であり、この四月に六ツ美村長に就任した早川龍介でした。齋田が六ツ美村に決まった背景の一つに同村出身の早川龍介の尽力によるものが大きかったことはいままでもないでしょう。奉賛会は六ツ美村の役員により組織されたもので、実際の運営も六ツ美村が中心でした。しかし事務所は会務を統括する会長（碧海郡長）がいる碧海郡役所内とし、六ツ美村の八幡社事務所には出張所が設けられまし

いました。

式典の後、収穫された米は厳重な管理のもと一粒ずつ選別されました。十月十五日に知事は供納米の白米の点検をしました。五つの唐櫃に入れられた供納米は、安城町役場の齋館へ運ばれました。翌日早朝、供納米は安城駅から特別専用列車に積まれ京都へ出発しました。十一月十四日、京都仙洞御所内において大嘗祭が行われました。

安城町の発展と山崎延吉

この悠紀齋田の一大行事は愛知県や碧海郡、六ツ美村・安城町にとって記念すべき事であり、人々に地域の誇りを植え付けました。

当時の安城町はめまぐるしい勢いで発展しようとしている頃でした。安城町は明治三十九年（一九〇六）に誕生しました。大正二年に陸軍の碧海郡演習に大正天皇の行幸があり、天皇は安城駅から馬車で演習の行われる知立へ向かいました。そのため安城町の道路や建物の整備を進めることになりました。翌三年には郡役所が知立から移ってきました。何もなかった駅前には旅館や郵便局、警察署が建ち、周辺には製糸工場が建ち始めていました。

大正四年、安城町では十一月一日より五日間、御大典記念として愛知県農会主催の農業資料展覧会が開かれました。農事資料や特殊農産物、副業

た。当時の碧海郡役所は現在の文化センター（市内桜町）の場所にありました。

齋田は広さ四反歩（約〇・四ヘクタール）、周囲には竹矢来や忌竹（葉のついた青竹）、標柱が立てられ、しめ縄をめぐらせました。昼夜問わず六ツ美村の青年会と在郷軍人会により見張りをするなど厳重に管理されました。

技術者の矜持

当時、県立農事試験場の本部は西春日井郡清洲町（現在の清須市）にあり、安城町には支部として種芸部（市内池浦町）がありました。この支部において齋田の稲の管理が行われました。

試験場長山崎延吉を始め試験場技師島村麟太郎や技手岩槻信治たちにより稲の選抜から栽培、日々の管理が進められました。稲は「郡益」という早稲の品種で、農事試験場で試作され、すでに碧海郡で栽培されていたものでしたが、県知事により「万歳」と新たに名づけられました。

齋田と八幡社の間には気象観測所を設け、百葉箱や観測器具が置かれました。気温、風向、風力などの観測は農事試験場員により行われました。

肥料には鯀粕、過燐酸石灰、藁灰が用いられました。田植え後の除草は五回にわけて行われました。病虫害の防除については三日ごとに巡視して螟虫卵を採取したり、齋田周囲

品を並べ審査するものでした。場所時は碧海郡役所、明治用水事務所、安城町会議事堂の三か所をあてました。来賓は帝国農会幹事長をはじめ郡市農会長、代議士など一〇〇人を越え、来会者は八〇〇人以上にものぼりました。県農会幹事である山崎延吉はその審査員長でした。

延吉自身は農林学校長、農事試験場長、農事講習所長などを任せられ、すでに全国から招待され講演活動をしていました。そんな中での齋田における山崎延吉の存在は安城町にとって大きな広告塔にも値しました。

愛知県に来るならば碧海郡へ、碧海郡の中でも延吉がいる県立農事試験場や県立農林学校のある安城町へと、その名を全国に広める絶好の機会であったことは他でもありません。碧海郡や安城町はこの数年後、日本デンマークと呼ばれ、全国から農業関係者が視察に訪れるようになったのです。

大正の悠紀齋田は安城と関係がないと思われがちですが、山崎延吉ら農事試験場の活躍は大きく、当時の安城町にも影響を及ぼしたのです。

【参考文献】

- ・野々山克彦『碧海大地の農業の礎 大嘗祭 悠紀齋田』（二〇一四年）
- ・山崎延吉『我農生回顧録』山崎延吉全集刊行会（一九三六年）
- ・『愛知県農会報』第二〇九号・二一〇号（共に一九一五年）
- ・『大正四年山崎延吉日記』安城市歴史博物館所蔵
- ・『悠紀齋田作業概要』安城市歴史博物館所蔵 悠紀齋田関係資料七



悠紀齋田関係者写真（山崎延吉は前列右3番目、中央に碧海郡長 井深基、本館蔵）

風を感じて歴史を歩く

— 丈山小学校区② —

今回は丈山小学校の北東側を歩き、和泉の手延べ素麺の歴史を探ったり、和泉町の一本松、石井町の岡本兵松の銅像を訪ねたりします。



手延べ素麺づくり



久津名七右衛門の一本松



岡本兵松銅像
(石井辻原遊園内)

【前号訂正のしるし】
丈山文庫の字雨堂を移されたのが、昭和二十四年と表記されていましたが、昭和四十四年の間違いです。大変ご迷惑をおかけしました。

和泉の手延べ素麺は、三メートル六〇センチの長さを誇る日本一長い素麺です。
和泉手延麺業組合代表の間杉秀昭氏に、長素麺づくりの由来、現状等について取材しました。
天明の飢饉（二七八―一七八七）の頃、和泉村では水利が悪く麦ぐらしか作ることが出来ませんでした。農民が貧困から逃れようと副業として素麺づくりを覚え、それが広まったとされています。一時は六〇〜七〇軒の製麺所があったと言われていますが、その数は減り、現在は数軒を残すのみです。素麺産地の多くは冬に作りますが、和泉手延素麺は夏に作ります。一度乾燥させた素麺を三河湾の方から吹く湿った風で半生の状態に戻し、麺の美味しさを引き出します。伝統技法を習得するために熟練を要する上に、毎年夏場は深夜二時から作業を始める仕事なので、後継者不足が大きな問題となっています。

久津名七右衛門の一本松
半場川、国道23号を越えると田んぼの中に忽然と一本松が現れます。元和の頃（一六二五―一六二四）、入会林野の利害関係をめぐる村間の紛議が多く発生しました。一本松のある場所は、当時「五箇野原」と呼ばれ、起伏の多い小松原が点在する広大な山野の一部でした。この五箇野原という地名は、和泉村、城ヶ入村、中根村、小川村、桜井村の五ヶ村が入会権を認められていた事にちなんでつけられたと伝えられています。農耕地としての利用価値はなくても、牛馬の飼料や肥料の採集に必要な土地でありました。

岡本兵松銅像
一本松から東の方向に進むと、岡本兵松の立像と記念碑等が建てられている石井辻原遊園に行くことができます。
岡本兵松は、碧南市で生まれましたが、三三歳の時に、五箇野原の土地を買い入れ開墾を始めました。荒れ野を実りある田にするためには、都築弥厚の用水計画が欠かせないと決心した岡本兵松は、明治元年（一八六八）以来、何度も役所に願い出ました。明治六年、県庁の指示を受け、伊予田与八郎と連名で計画を提出しました。さらに七年の歳月を経て、用水の二部は完成しました。最初の願い出から十年以上かかりました。用水開通後も岡本兵松の暮らしは決して楽ではありませんでした。しかし、信心深く、篤志家の兵松は、神明社社殿を寄付したり、法義示談所（現在の明水寺）を設けたりしました。
岡本兵松の遺徳を偲び、町内会が、毎年六月に、遺族と明治用水関係者を招いて報徳祭を実施しています。また、明水寺においても、四月に功労者追法要が行われています。

平成31年3月発行

安城市文書史料集成 第8集 『西丸下歩兵隊 安城村山口柳助の記録』

新刊本
紹介

今から約一六〇年前の江戸時代末、いわゆる幕末の頃、安城村（現在の市内安城町）の村人から幕府の軍隊に徴発された者たちがいました。村人は戦闘の経験はありませんでしたが、幕府歩兵隊の兵隊として駆り出されました。この人たちの中で柳助（山口姓、竜助とも）は、兵役期間の文久三年（一八六三）正月から慶応三年四月（一八六七）までの約四年四か月の間の道中記、従軍行動を書いた日記や記録、絵図などを残していました。これらの史料は安城市歴史博物館に収蔵されています。
時代が古ければ古いほど具体的な事実を語る歴史史料は少なくありません。幕末は比較的新しい時代ですが、軍隊に入った者の動きが分かる史料、特に当時の百姓身分から幕末の動きを記録したものはあまり発見されていません。昨年の平成三十一年度当館で開催された特別展『幕府崩壊―幕末維新を生きた地方の証言者たち―』では一部の史料を展示しましたが、今回、日記・記録類などの翻刻と写真をまとめて刊行しました。
柳助は幕府陸軍が創設された時から年季五年（数え）を終えて故郷安城村へ帰ってきました。初の従軍は一四代將軍家茂の上洛で、次に二度目の上洛、そして初めての戦闘は常陸国（茨城県）での浪士の叛乱や水戸の動乱の鎮圧・追討でした。最後は第二次長州征伐に従軍しました。
柳助の日記には従軍で移動した際の休泊した日付や宿場、旅籠名が書かれています。滞在した間はその日の行動を記しました。従軍時の歩兵隊は、戦闘がなければ警備や警護、そのほか稽古（訓練）が主な仕事でした。戦に出たことも書かれています。柳助の関心ごとといえ、いづどこに宿泊したのか、旅籠名はもちろんのこと、百姓家でも名前を記録するというものでした。また、時間が許せばその土地の名のある寺社や史跡なども参詣し記録しています。ただ第二次長州征伐での大島（山口県周防大島町）の戦いでは、唯一左手足にかすり傷を負った事は柳助にとって重大な出来事として「長州征伐御用中日記」に記し

また、柳助が書き写した天狗党の乱追討の「浪徒追討記」や第二次長州征伐の「長州征罰記」などの記録には、柳助たちと同じ幕府歩兵隊が従軍した戦いの様子が詳細に記されています。天狗党の乱追討では水戸藩の反射炉や水車を幕府歩兵隊が火炮などで壊す場面、第二次長州征伐では奇襲をかけてくる長州兵との戦いや使用した武器についても記されています。
この本では、幕府歩兵隊として柳助の日記や記録類のすべてを翻刻しました。また日記や那珂湊（茨城県ひたちなか市）の戦いの絵図や將軍上洛の刷物などの写真を掲載しています。巻末には柳助が従軍で訪れた地名や登場する主な人名の索引を付けました。柳助が見聞きし、戦いに従軍した事を史料を通して実感できる一冊となっています。

（文責 三島一信）



歴史博物館の展示に欠かせない展示補助作業員さん。
展示に関連する資料をパネルや立体物などで表現する
お仕事をされています。

Q1 どんな仕事内容ですか
学芸員さんが要望するものを具現化する仕事です。写真の加工やイラスト・図解の作成など主にグラフィック関係を担っています。展示のときには、キャプションパネル、展示造形物の作成も行っています。

Q2 デザインが得意なんですか
若い頃からチラシやホームページを作ったり、Tシャツのデザインをする仕事をしていました。プライベートでも演劇の劇団員として活動し、展示造形物の作成は劇団の大道具作りでの経験が役に立っています。旅行に行っても、風景よりも街中の看板ばかり見えています(笑)。
そういつた経験が仕事に活かせています。形状を問わず、ゼロから物を生み出すのが好きなんです。

Q3 仕事における喜びは
自分の制作物が展示の役に立ったり、内容をよりわかりやすい形で伝えられたりすることが喜びです。初めはパネルのデザイン・作成だけだったのが、最近は博物館のキャラクター作り

Q4 今までの最高傑作は
今春の企画展「火消し」で制作した火の見櫓です。昔の写真や資料を見て、忠実にミニチュアを再現しました。できるかどうかとも未知数でしたが、完成品が展示され、感激しました。

Q5 今後の抱負は
デザインは、やるたびにノウハウが蓄積されています。歴史博物館の仕事に就いて8年目。展示のやり方も段取りもわかってきたので、こちらからも展示方法や企画のアイデアを出していけるといいなと思います。



2019

博物館実習

報告



当館では、学芸員の資格取得を目指す博物館実習を実施しています。令和元年度は9名の学生を受入れ、7月31日から8月8日の間のうち6日間の実習を行いました。当館の実習は様々な資料の取扱いについての実技と、展示替えの実践に重点を置いています。

はじめは常設展示や特別展、収蔵庫の見学を行いました。収蔵庫は普段入ることのできない場所であり、貴重な経験ができたと述べる実習生が多く見られました。2日目以降は、資料取扱い実技(民具資料・考古資料など)と展示替えの準備に取り掛かります。

民具資料の取扱いは、2班に分かれて養蚕と瓦屋の道具を整理しました。収蔵庫から民具を取り出すことから始め、埃落とし、調書の作成を実践しました。養蚕道具を扱う班では、筆などを用いて繭繰機の埃を落とすのですが、細部ほど埃が溜まっており、なかなか埃を落とせず苦戦していました。一方、瓦屋の道具は、調書の作成時に名称や用途等を調べることに多くの時間を要していました。

考古資料の取扱いでは、埋蔵文化財センターで木製品の整理を行いました。木製品は乾燥による変形・収縮や腐食を防ぐために不織布に包み、水槽に漬ける「水漬け処理」を施しています。一年に一度水替えを行い、筆で木製品を洗い、新しい不織布で包み直し再び水漬けます。木製品は腐朽により非常に脆いため、実習生同士で役割分担をしながら慎重に作業しました。

そして、展示替えは、与えられたテーマに沿って資料を選定し、観覧者にとって見やすい資料の配置や、理解してもらえるキャプション(解説パネル)が作成できるか、という重要な実習です。学芸員の指導を踏まえながら、よりよい展示になるよう実習生がアイデアを出し合いました。

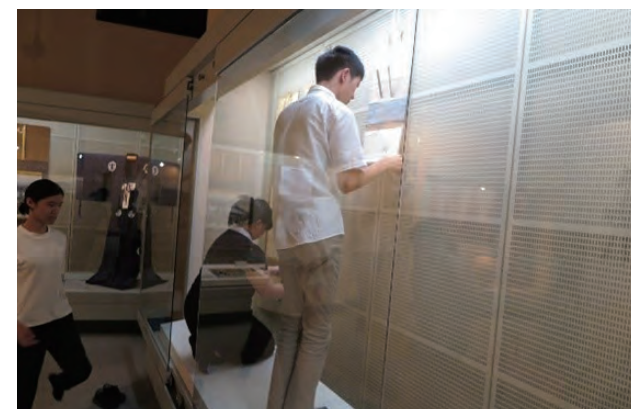


展示構想の策定

今年度は「西三河の古代集落」と「江戸時代の医療」をテーマとしました。「西三河の古代集落」の班は古代の土器・木簡・墨書土器に焦点を当てましたが、数多く出土した土器の中から展示物を選定することに悩む場面が見られました。一方、「江戸時代の医療」の班は安城の村医者を主軸としましたが、詳細が記載されている文献が少ないため、下調べに苦労していました。

展示に欠かせないキャプションも実習生が作成します。実習生がテーマに適した情報を取捨選択し作成したキャプションを学芸員が添削し、話し合いの中で推敲を重ね、ようやく完成することができました。

これまで展示していた資料を撤収し、実習生が選定した資料の位置や観覧者の視線を意識しながら展示しました。最後に、実習生が展示内容や意識した点を発表して学芸員が講評を行い、実習は終了しました。



展示品の撤収



展示替え内容の発表

安城市歴史博物館休館のご案内

安城市歴史博物館は今秋より施設の耐震・改修工事に入らせていただきます。工事期間中は、歴史博物館は休館いたしますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。また、博物館入口前にある「ぷらす珈琲店」もあわせて休業いたします。

休館期間(予定)

令和元年9月2日(月)～令和2年3月31日(火)

※安城市民ギャラリーおよび安城市埋蔵文化財センターは、通常どおり開館いたします。
※10月5日(土)は安祥文化のさとまつり、10月25日(金)からは「安美展」が開催されます。ぜひお越しください。



4月に
また会おうニャン



じんめんにゃん